



【IFA2009】船井、ワイヤレスのように見える液晶TVなど —“Androidテレビ”やBD内蔵テレビも展開



会期：9月4日～9月9日(現地時間)

会場：メッセ・ベルリン見本市会場

IFAの展示会場でユニークな展示を行なっているのが、船井電機だ。同社は自社ブランドや、米国におけるPhilipsブランドのテレビ事業なども行なっているが、主軸とするのはOEM事業。今回は、ワイヤレステレビ“風”のテレビの新提案やGoogleが主導するAndroidをOSに使ったテレビなどを出展している。

■ ワイヤレスのようで、そうではない「Air Mount TV」

ユニークな提案といえるのが「Air Mount TV」という宙に浮いたようなデザインのテレビ。透明なパネルの上部にテレビが現れたようなデザインとなっており、BDプレーヤーからの映像をHDMI経由で入力している。



Air Mount TV

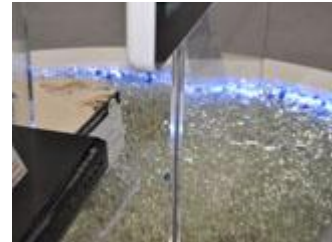
一見すると、テレビから電源やHDMIケーブルが繋がっていないように見えるデザインとなっている。しかし、実際は“ワイヤード”のテレビとなっている。テレビ部は40型でLEDバックライトを採用。薄型化と軽量化により壁掛け可能なデザインを実現した。

実はHDMIと電源のケーブルを透明なEthernetケーブルで代用して

おり、そのケーブルを透明なパネル上のテレビ台に通すことで視認し難くしている。HDMI入力の変換にはイスラエルValens Semiconductorの「HD Base T」技術を採用。入力した信号をEthernetとしてテレビに入力し、テレビ側の専用チップで復調する。



背面を見てもケーブルが無いように見える



スタンド部を透明のEthernetケーブルを通して

また、HD Base Tでは、100M以上のケーブルでもHD信号を4本同時に伝送できるという利点もあるという。さらに映像信号だけでなく、Ethernetや、USBなどの各種信号の双方向通信も可能なため、外部機器からのテレビ制御などの活用も可能となる。



HD Base T用のチップを積んだコンバーターで、HDMI信号と電源をEthernetで伝送。今回のデモでは2本のEthernetケーブルを使っている



100m以上のケーブル引き回しも可能になる

特徴はコストが安いことで、Wireless HDなど、既存のワイヤレス技術を使うと5~8万円のコスト増になるところを2万円以下には抑えられるとのこと。同社ではAMIMONのチップセットを使ったワイヤレステレビを製品化しているほか、SiBEAMチップセットを使ったWireless



Wireless HDを使ったテレビを開発中

HD搭載のテレビも開発しているが、より安価で“線が気にならない”製品としてAir Mount TVを企画したという。

今回の展示での意見を聞きながらの製品化を見込んでいたが、開幕初日の段階で非常に評判が良かったため、早ければ2010年の前半には商品化できるのではないか、としている。
